

平成28年10月31日

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地		
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日	千葉 茂	〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111		
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地		
学校法人片柳学園		平成25年3月1日	片柳 鴻	〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111		
目的	二級自動車整備士より一層高度化した未来の自動車技術に対応できる、高度整備技術・高度情報技術(IT)・環境保全技術を習得した一級自動車整備士、将来の整備技術コンサルトを育成することを目的とします。					
分野	課程名		学科名	専門士	高度専門士	
工業	工科技術専門課程		一級自動車整備科	-	平成21年文部科学大臣告示第25号	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は単位数	講義	演習	実習	実験
4年	昼間	4109	1097	0	3012	0
						単位時間
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
200人		103人	4人	5人	9人	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定</p>	
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月23日～1月9日 ■学年末:3月21日～3月31日			卒業・進級条件	<p>進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること</p> <p>卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること</p>	
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている			課外活動	<p>■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭</p> <p>■サークル活動: 有</p>	
就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等 アウディジャパン販売株式会社 株式会社関東マツダ 東京トヨタ株式会社 ネッツトヨタ多摩株式会社 フォルクスワーゲンジャパン販売株式会社 株式会社村内外車センター</p> <p>■就職率※1 : 100 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合※2 : 95 %</p> <p>■その他</p> <p>(平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)</p>			主な資格・検定等	<p>一級小型自動車整備士 二級ガソリン自動車整備士 二級ジーゼル自動車整備士 危険物取扱者、低圧電気取扱特別教育 ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育 損害保険募集人資格、ビジネス能力検定 職業訓練指導員 他</p>	
中途退学の現状	<p>■中途退学者 2 名 平成27年4月1日時点において在学者 107 名 平成28年3月31日時点において在学者 105 名</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更・就職、経済的理由、病気療養・怪我治療</p> <p>■中退防止のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話連絡等による保護者との情報共有 担任による指導の他、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてはカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている</p>			■中退率 1.9 % (平成27年4月1日入学者を含む) (平成28年3月31日卒業者を含む)		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

国土交通省が定める自動車整備士養成施設の基準に則り、幅広い高度な整備技術能力とビジネス感覚を身に着けた整備技術コンサルタントとしての人材を育成するため、4年間を通してインターンシップを含めた高度な実践的カリキュラムを学習していく。さらには環境保全や安全管理といった学習を通して、職場、地域に対しても先導的な役割を担うことのできる人材を育成することを基本として適時編成委員会を開催し授業内容等についてや企業から求められる人材育成を目的として企業ヒヤリングを行い、授業内容および改善を行うとともに、企業等より実習の授業及び教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。またインターンシップ時に企業訪問を行い、企業からの要望を伺い実務教育に生かしていく。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 孝司	東京都自動車整備振興会 八王子支部支部長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	①
堀上 則夫	株式会社紅オートサービス 会長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	③
坂本 康将	インプロブ株式会社 アフターセールス部マネージャー	平成28年4月1日～平成29年3月31日	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	
高地 昭彦	日本工学院八王子専門学校 科長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	
清水 拓也	日本工学院八王子専門学校 主任	平成28年4月1日～平成29年3月31日	
渕川 達也	日本工学院八王子専門学校 係長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(8月、3月)

(開催日時)

平成27年度第2回分科会 平成28年3月11日 13:30～17:15

第1回分科会 平成28年8月23日 13:00～16:00

第2回分科会 平成29年3月予定

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育編成委員会分科会で本学科の教育計画、カリキュラム、現況など理解いただき、業界で必要なスキルなどの提案を頂き、次回の会議までに実施、フィードバックを行っている。今年度は平成28年度3月教育編成委員会での委員のご意見を基に4年次サービスマネジメント実習において、経営、企業、サービスなどについて授業を行い、平成28年8月の教育編成委員会において委員にフィードバックした。又連携しているエンジン整備実習基礎2、シャン整備実習基礎2、電装整備実習基礎2、自動車整備実習基礎の1年次科目カリキュラムに対してシラバスなどを提示し、連携企業(オートサービスクロスロード増澤氏)としての実際の実習内容・方法に関して報告をして評価を受け、適時学科へフィードバックを受けている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

国土交通省が定める自動車整備士養成施設の基準に則り、企業が求める人材として身につけるべき知識・技術・ビジネスマナーの課題のヒヤリングを行い、実習内容の検討を行う

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

オートサービスクロスロード代表の増澤氏に2年次実習4科目にて連携し、現在の整備作業の傾向に合わせ、自動車業界の知識、現場での実践力などの基礎技術を中心に企業目線による企業が求める人材育成を行い、それを基に評価を受けている。また、適時学科へのフィードバックもおこなっている

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
エンジン整備実習基礎2	ガソリンエンジンとディーゼルエンジンの基本を作業を通して学びます	オートサービスクロスロード
シャン整備実習基礎2	ブレーキやサスペンションなどのシャン整備に関する技術を作業を通して学びます	オートサービスクロスロード
電装整備実習基礎2	自動車の電気装置に関する整備技術の基本を作業を通して学びます	オートサービスクロスロード
自動車整備実習基礎	自動車のエンジン整備・シャン整備・電装整備の基礎的な整備方法を作業を通して学びます	オートサービスクロスロード

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

平成28年7月28日 16:45～18:00 マツダ販社による新型技術＆新型車両についての研修

平成28年8月1日 15:00～16:00 日野自動車(日野オートプラザ)の歴史、自動車産業についての研修

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

平成28年4月7日 10:00～11:00 新入職員における授業力、指導力確認研修

平成28年8月1日 10:00～14:00 学科内における問題発見研修

平成28年8月2日 10:00～18:00 MARSプロジェクト体験におけるアクティブラーニング研修

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

平成28年11月 株ヤナセによる輸入車研修予定

平成28年12月21日 いすゞ首都圏による大型車研修予定

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

平成28年9月21日 9:30～12:00 スズキフレッシュマンセミナー研修予定

平成29年3月 教員研修予定

### 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客觀性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする

#### (2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2) 運営方針(3) 事業計画(4) 運営組織(5) 人事・給与制度(6) 意思決定システム(7) 情報システム
(3) 教育活動	(8) 目標の設定(9) 教育方法・評価(10) 成績評価・単位認定等(11) 資格・免許取得の指導体制(12) 教員・教員組織
(4) 学修成果	(13) 就職率(14) 資格・免許の取得率(15) 卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16) 就職等進路(17) 中途退学への対応(18) 学生相談(19) 学生生活(20) 保護者との連携(21) 卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22) 施設・設備等(23) 学外実習・インターンシップ等(24) 防災・安全管理
(7) 学生の受け入れ募集	(25) 学生募集活動(26) 入学選考(27) 学納金
(8) 財務	(28) 財務基盤(29) 予算・収支計画(30) 監査(31) 財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32) 関連法令、設置基準等の遵守(33) 個人情報保護(34) 学校評価(35) 教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36) 社会貢献・地域貢献(37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10) 及び(11)については任意記載。

#### (3) 学校関係者評価結果の活用状況

教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などをグループで一貫して行い、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。

## (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	卒業生／IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	地域関連
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社 代表取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
古木 勝紀	株式会社パンパー 取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	デザイン企業等委員
一瀬 康剛	株式会社アトム精密 代表取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
長畑 芳仁	NPO法人日本ストレッチング協会 理事長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	スポーツ企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野ハートクリニック 事務長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	医療企業等委員
榎原 直哉	八王子市私立保育園協会 (藤井保育園副園長)	平成28年7月1日～ 平成29年3月31日(9ヶ月)	医療・保育団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

## (5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) 平成28年9月12日

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

## 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

## (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画・実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

## (2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、平成27年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

## (3)情報提供方法

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

## 授業科目等の概要

(工科技術専門課程 一級自動車整備科) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネススキル	仕事についての基礎知識などを養い、ビジネス能力を総合的に高めるためのトレーニングをします。	1・前	34	2	○			○	○		
○			自動車基礎	自動車の仕組み・構造・構成部品についての基礎を学びます。	1・前	134	8	○			○	○		
○			自動車整備機器	自動車整備に使用する機器工具及びその使用方法について学びます。	1・前	34	2	○			○	○		
○			自動車技術	自動車を構成しているエンジン・シャシ・電子電気装置の部品・構造・機構・動作原理について学びます。	1・後	100	6	○			○	○		
○			自動車整備基礎	自動車の仕組み・構造・構成部品についての基礎を学びます。	1・後	67	4	○			○	○		
○			エンジン整備実習基礎1	ガソリンエンジン、ジーゼルエンジンの整備技術の基本を、作業を通して学びます。	1・前	78	2			○	○	○		
○			エンジン整備実習基礎2	ガソリンエンジン、ジーゼルエンジンの整備技術を、作業を通して学びます。	1・後	78	2			○	○		○	○
○			シャシ整備実習基礎1	ブレーキやサスペンションなどのシャシ整備に関する基本技術を、作業を通して学びます。	1・前	78	2			○	○	○		
○			シャシ整備実習基礎2	ブレーキやサスペンションなどのシャシ整備に関する技術を、作業を通して学びます。	1・後	78	2			○	○		○	○
○			電装整備実習基礎1	自動車の電気装置に関する電子電気技術の基礎について実習を通して学びます。	1・前	78	2			○	○	○		
○			電装整備実習基礎2	自動車の電気装置に関する整備技術の基本を、作業を通して学びます。	1・後	78	2			○	○		○	○
○			測定実習	自動車整備で必要な計測を、測定作業を通して学びます。	1・前	45	1			○	○	○		
○			工作実習	金属加工を通して、その性質や加工方法を学びます。	1・前	23	0			○	○	○		
○			自動車整備実習基礎	自動車のエンジン整備・シャシ整備・電装整備の基礎的な整備方法を作業を通して学びます。	1・通	89	2			○	○		○	○
○			電子制御実習基礎	自動車の電子制御技術の基礎を実習を通して学びます。	1・通	58	1			○	○	○		
○			国家2級合格講座	二級自動車整備士国家試験合格へ向けた講座です。	2・後	17	1	○			○	○		
○			自動車工学	自動車のエンジン・シャシ・電子電気装置などの動作原理と部品について詳しく学びます。	2・前	100	6	○			○	○		
○			自動車整備技術	エンジン・シャシ・電子電気装置の整備方法を学びます。	2・前	67	4	○			○	○		

○		自動車総合技術	自動車の故障診断方法の基本など総合的な整備方法を学びます。	2 ・ 後	56	3	○			○	○		
○		自動車総合整備	自動車の故障診断方法の基本など総合的な整備方法を学びます。	2 ・ 後	67	4	○			○	○		
○		自動車検査基礎	自動車の検査方法の基礎を学びます。	2 ・ 後	23	1	○			○	○		
○		自動車整備法規基礎	自動車整備に関する法規の基礎を学びます。	2 ・ 後	23	1	○			○	○		
○		電子制御実習	自動車のエンジン・シャシを制御する電子制御の原理を具体的に学びます。	2 ・ 通	32	0			○	○	○	○	
○		エンジン整備実習1	可動エンジンを使用して、ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの整備技術を学びます。	2 ・ 前	78	2			○	○	○		
○		エンジン整備実習2	可動エンジンを使用して、ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの整備技術を、より実践的に学びます。	2 ・ 後	78	2			○	○	○		
○		シャシ整備実習1	実習車両を使用して、ブレーキやサスペンションなどのシャシに関する整備技術を学びます。	2 ・ 前	78	2			○	○	○		
○		シャシ整備実習2	実習車両を使用して、ブレーキやサスペンションなどのシャシに関する整備技術を、より実践的に学びます。	2 ・ 後	78	2			○	○	○		
○		電装整備実習1	自動車の電気装置に関する部品の特性を理解することと、その電子制御装置の整備技術を作業を通して学びます。	2 ・ 前	78	2			○	○	○		
○		電装整備実習2	自動車の電気装置に関する整備技術を、より実践的に学びます。	2 ・ 後	78	2			○	○	○		
○		自動車総合整備実習	実習車両を使用して総合的な整備作業について学びます。	2 ・ 通	100	2			○	○	○		
○		自動車検査実習	実習車両を使用して自動車検査作業について学びます。	2 ・ 前	56	1			○	○	○		
○		ビジネスマナー	就職活動に備え、将来の社会人として必要な知識・マナーを身につけます。	3 ・ 後	17	1	○		○	○			
○		安全管理	災害防止・防火・防災・救急処置について学びます。	3 ・ 後	34	2	○		○	○			
○		エンジン電子制御技術	ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの最新電子制御について学びます。	3 ・ 前	34	2	○		○	○			
○		環境保全	資源の有効利用・産業廃棄物処理・汚染物質・工場騒音・工場振動に関する環境保全方法について学びます。	3 ・ 後	34	2	○		○	○			
○		高度エンジン整備技術	ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの最新電子制御整備について学びます。	3 ・ 前	34	2	○		○	○			
○		高度シャシ整備技術	AT（オートマティックトランスミッショ n）・PS（パワーステアリング）等の最新の電子制御整備技術について学びます	3 ・ 前	34	2	○		○	○			

○		高度電装整備技術	高度なコンピュータ電子制御装置の整備について学びます。	3・後	34	2	○		○	○	○
○		自動車検査技術	道路運送車両法の保安規準・自動車検査の詳細を学びます。	3・後	6	0	○		○	○	○
○		自動車新技術	ハイブリッド車・CNG車・筒内噴射式エンジン・CVT・ブレーキ・スリップ・姿勢制御等の制御技術について学びます。	3・後	34	2	○		○	○	○
○		自動車整備法規	自動車整備に関する法規及び通達の詳細について学びます。	3・後	12	0	○		○	○	○
○		シャシ電子制御技術	AT（オートマティックトランスミッショング）・PS（パワーステアリング）・ABS・オートAC（オート・エア・コンディショナ）等の電子制御について学びます。	3・前	34	2	○		○	○	○
○		整備機器取扱技術	整備支援機器・高精度計測機器・自動車検査機器取扱い方法を深く学びます。	3・前	17	1	○		○	○	○
○		総合故障診断技術	最新の故障診断器を使用した振動・騒音を含めた複雑な故障診断技術について学びます。	3・後	34	2	○		○	○	○
○		応用エンジン整備実習	電子制御技術搭載の実車のエンジンの点検・分解・組立・調整・検査を実習します。	3・前	156	4			○	○	○
○		応用シャシ整備実習	電子制御技術搭載の実車のシャシの点検・分解・組立・調整・検査を実習します。	3・前	156	4			○	○	○
○		応用電装整備実習	実車の電子制御装置の点検・分解・組立・調整・検査を実習します。	3・後	156	4			○	○	○
○		応用自動車検査実習	自動車検査員レベルの検査実習をします。	3・後	23	4			○	○	○
○		応用総合整備実習	最新技術搭載の実車を総合故障診断して整備する実習を行ないます。	3・後	156	4			○	○	○
○		応用工作実習	手作業・旋盤・フライス盤・溶接などによる金属加工作業を実習します。	3・前	12	0			○	○	○
○		応用測定実習	エンジン出力・駆動力やセンサの特性等の測定方法を実習します。	3・前	12	0			○	○	○
○		国家1級合格講座	一級自動車整備士国家試験合格へ向けた講座です	4・前	17	1	○		○	○	○
○		インターン実習	自動車の点検、整備、故障原因探求、総合診断の整備作業と接客実務を企業で実体験します。	4・前	223	6			○	○	○
○		サービス・マネジメント	販売士・顧客管理・顧客対応技術・整備見積書作成技術について実習します。	4・前	167	5			○	○	○
○		総合実務実習1	顧客管理、顧客対応技術、整備見積書作成技術について実習します。	4・前	67	2			○	○	○
○		総合実務実習2	高効率整備作業マニュアル作成、高難度故障原因探求作業、総合診断作業を実習します。	4・後	545	16			○	○	○
合計				56	科目	4109	単位時間(140)	単位			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目4109時間（140単位）取得すること	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。